

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。

ゆえに、均等待遇。

なべつち差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利した！

Twitterページを開設しました！ 未来のツクナツバーも見れます。 <https://twitter.com/Unionkyusyu> ユニオン長崎で検索！

# 新型コロナウイルスに感染して考えたこと

# 未来



郵政産業ユニオン  
**PIWU**  
全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中野支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 4073  
20年7月17日(金)  
Tel・Fax 095-828-1953

おはようございます。  
新型コロナウイルス感染の第二波が急速に広がっています。長崎市でも昨日までに新たに16名の感染が発表されています。この一連の感染者のほとんどは、3日の感染者の二次感染です。鹿児島市のクラスターの例（15日現在114名）でも分かるように、今回の感染拡大ではクラスターの規模が大きい。関連の感染者が多いように思えます。

政府によれば、現時点では市中感染は起きていないとされていますが、新型コロナウイルスは身近にも存在し誰でも感染する恐れが高まっていると思います。

今日掲載するのは、新型コロナウイルスに感染した知人の体験です。長崎市でもクラスターが発生と報じられても、まだ

## 新型コロナウイルス 体験記 (原文の一部を編集し掲載しています)

私が体に異変を感じたのは3月19日の朝。体温を測ると37.5度を越えていました。そのまま寝込み、夜になっても下がらず、翌日3月20日(祝日)は病院が休みで病院にもいけず、不安な気持ちで過ごしたのです。昨年の11月頃から咳が止まらない、息苦しさが続く状態で、通院していましたから尚更でした。

21日に病院に行き「熱が下がらないのでコロナ心配している」と医者に話す、医者は風邪の一種と判断したのです。この時は医者もコロナがこの地域から発症すると思っていなかったかもしれません。

22日も病状は変わらず食欲は減り、うどんを少し食べられる程度で最後にはケーキ、プリンのような甘いものだけ食べるくらいになっていました。妻が心配して病院に何回も電話してやっと予約が取れた、翌日病院にいくと、別館で防護服を着た看護師に聞き取りと検査が行われました。

身体はだるいままパイプ椅子に座って待っていると、17時頃に看護師から突然「入院して下さい」と言われ、入院することになったのです。入院する場合にも病院の裏口から入り、防護服を着た医者に検査されました。19時頃に防護服を着た医者が「検査結果はでていないがコロナの疑いがある。コロナに対する薬はまだないので免疫力を高める点滴で様子を見る」と、点滴が何日も行われました。

入院しても食欲はなく38度以上の熱は下がらないまま一週間以上続き、咳が出ると15回以上せき込むなどゼイゼイが止まりませんでした。入院して2日経った時、「私をふくむ4人が感染し、3人は重症で話もできない。そのうちの1人は奥さんも感染し、入院した」という話を聞きました。その後、2人が亡くなり、1人は重症状態。幸い奥さんは退院したという連絡が入りました。これ聞いた私は、言葉に言い尽くせないほどの衝撃と、「まさかそんなことがあるのか。やっていなかったら、こうはならなかったと。自分に責任を問う然態が悶々と続いたのでした。その気持ちは回復した今も持ち続けています。

熱が下がり始めたのは3月30日頃で、その後、食欲も徐々に始まる回復していると感じるまでになったのです。その後、2回目の検査が行われ、比較的病状は軽いと判断されていたこともあり、4月9日に退院したのでした。

多いように思えます。知人も「自分が感染する」まで「志村けんさんが亡くなる」までは、深刻に考えてなかったと書いています。ウイルスの感染力を考えると、身近な人が感染した時には自分も感染している可能性ががあります。感染を広げないために何が出来るか、行動すればよいかを改めて考えていたかったです。



新型コロナウイルス対策  
推進中

「体験」を紹介します。尚、紙面の都合上、発症から入院・退院するまでの一部だけの紹介となっています。全文を読みたい方は、支部役員まで連絡をお願いします。

知人は3月のある日、話し合いに参加してました。そして参加した9名のうち4名が感染し2名が亡くなりました。後日分かったことですが、2〜3日前から微熱など風邪の症状があった人がいたそうです。しかし、その時には風邪の症状があらなかった程度で気にしてなかったと言います。

知人は私記の最後にこう書いています。  
「私の場合は軽症であったから退院できたけど、3人は重症でそのうち2人亡くなっているのをみますと、持病をもつ人は特に気をつけていく必要があります。私が感染したことにより、喘息の持病がある妻も検査が行われました。結果は陰性で安心しました。」

ここで私たちに危機感がなかったのは、何故かを考えますと、私たち自身が感染症に鈍感になっていることと合わせて、政府の姿勢が国民に危機意識をもたせるものではなかったことにあると思います。今後は、政府やマスコミの情報だけではなく、普段からの生活で改めていくものがあると思っております。



期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。